

キラッ! 輝く人たち

3月30日、大田区民プラザを会場に開催された「第16回全日本アールンピアノコンペティション総合全国大会」において、金賞を受賞した若井由梨さん。昨年12月には「第25回日本クラシック音楽コンクール全国大会」に出場するなど、小学生のころから数々のコンクールで活躍しています。

曲が伝える楽しさや悲しみといった感情をピアノで表現する若井さんに、ますます高まるピアノへの思いを伺いました。

ピアノとの出会い

「幼少のころ、母と一緒に風呂に入っていると、いつも創作で歌をつくって歌っていたそうです。その歌を聴いていた両親が『音楽をやらせてみよう』と思ったのが、私がピアノを習い始めたきっかけです」。近所のピアノ教室に通い始めたのは3歳のときでした。

ピアノの思い出は、小学4年生のときに出場した「ピティナ・ピアノコンペティション」というコンクール。「本選への出場を目標に無我夢中で練習しました。今、思い返すと、夢中になれることを見つけられた瞬間でした。奨励賞で悔しい思いもしましたが、ちゃんと結果がでたことが嬉しかった」と話す若井さん。ピアノに対する気持ちが前向きに変化した大きな出来事となりました。

勉強と両立しながらピアノに向き合う

中学校は他県の私立中学校に進学。全寮制のため、ピアノの練習時間は限られました。校内にピアノを弾ける部屋があり、そこで毎日1時間半程度、個人で練習を重ねる日々。

「もっとピアノを弾きたい」。中学3年生の秋に音楽大学附属高校の受験を決めました。音大附属を目指す人たちの中では、圧倒的に不足していた練習量。「時間が限られているからこそ、練習にも集中ができたと思い

「ありのままの自分を表現したい」

若井 由梨さん（18歳・駒羽根）



ます」と、目標に向かって精いっぱい取り組んだ日々を振り返ります。

さらなる飛躍を

高校生活の集大成として臨んだ「第16回全日本アールンピアノコンペティション総合全国大会」。本人は、金賞受賞を手放しでは喜んでいません。「結果に満足しちゃいけないと思っています。満足してしまうと次に繋がられないから」と、自分に厳しい一面をのぞかせます。

この春、音楽大学に入学したばかり。将来の夢を聞いてみると、「オーケストラと共演し、ピアノ協奏曲を弾きたい」「学校で子どもたちに音楽を教えながら、コンサートにも出てみたい」と話してくれました。

ピアノを通じて、恩師や友人、たくさんの素晴らしい出会いがあり、その一つひとつの出来事が心の支えになっているという若井さん。これからの活躍を楽しみにしています。



▲雅美ピアノ教室コンサートにて